

JapanKnowledge+N の主なコンテンツ

事典系コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大百科全書（ニッポニカ）（小学館） ・ Encyclopedia of Japan(講談社) ・ 日本人名大辞典（講談社） ・ 情報・知識 imidas（集英社） ・ 現代用語の基礎知識（自由国民社）
辞書系コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国語大辞典（小学館） ・ デジタル大辞泉（小学館） ・ ランダムハウス英和大辞典（小学館） ・ プログレップ英和中辞典（小学館） ・ プログレップ和英中辞典（小学館） ・ COBUILD 英英辞典（ハーバーコリンズ社） ・ CAMBRIDGE 英英辞典（ケンブリッジ大学出版局） ・ 科学技術略語大辞典（日外アソシエーツ） ・ 数え方の辞典（小学館）
記事系コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週刊エコノミスト（毎日新聞社） ・ JK Who's Who ・ 会社四季報（東洋経済新報社）
書籍系コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東洋文庫（平凡社）

6.1.3 主な百科事典

世界大百科事典 平凡社

日本大百科全書 小学館

ブリタニカ国際大百科事典 ティービーエス・ブリタニカ

6.2 統計 ～効果的にデータを利用する～

【統計を探す方法は？】

統計を探すには次のような方法があります。

方法1 統計索引を利用する

「統計索引」を使えば、求める統計データがどの統計集に掲載されているかを調べることができます。調べたいことがらに関係することばを探し、あれば示された統計集を見てみましょう。

方法2 二次統計書を利用する

おもな統計書を集めて要約・編集した「二次統計書」から簡単な情報を入手できます。もっと詳しい情報が欲しいときには、出典情報から原資料へアクセスしましょう。

方法3 統計書の巻末にある事項索引で調べる

そのことさらに関係がありそうな統計書に直接あたり、巻末の事項索引を利用して調べてみましょう。

【統計を探すためのツール】

統計索引 どの統計資料に掲載されているか知りたい	
日本統計索引 日本統計索引編集委員会 1975-1976	1975年時点のわが国の基本的な統計資料を対象とする。きわめて詳細な索引項目(日常語からも検索可)から調査することができるが、発刊されてから30年以上たっていることに注意
統計情報インデックス 総務庁統計局 1992年版～年刊	昭和62年(1987)以降に発刊されたものを収録 中央省庁・政府機関発行の主要統計が主な対象。 検索項目は日本統計索引よりかなり荒いので、求めるキーワードが収録されていない場合は類似語等で検索する必要がある
統計情報総索引 総理府統計局 昭52年版～平2年版	統計情報インデックスの前身版 昭和48(1973)年～昭和62年(1987)年まで調査可能

e-Stat 独立行政法人統計センター	http://www.e-stat.go.jp 日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト キーワード・統計分野・作成機関名からの検索が可能 統計の新着情報・海外の統計機関へのリンク集などがある 総務省統計局へのアクセスはこちらから → http://www.stat.go.jp
------------------------	--

二次統計書 要約・編集された統計書から簡単な情報を入手する	
日本統計年鑑 総理府統計局 昭和24年版～	わが国のあらゆる分野についてのおもな官庁統計を編集した“包括的な統計年鑑”英文併記。巻末に50音順の事項索引がある。 ※最新版は総務省統計局ホームページで参照できる。 http://www.stat.go.jp
日本の統計 総理府統計局	「日本統計年鑑」を分かりやすく説明したダイジェスト版 ※最新版は総務省統計局ホームページで参照できる。
世界の統計 総務庁統計局	世界各国の人口、経済、社会、文化などに関する主要な統計を国際機関の統計書から選び、簡潔にまとめたもの。より詳細な統計資料への案内もされている。 ※最新版は総務省統計局ホームページで参照できる。

- 総務省統計局は改組、中央省庁再編等により名称が変更されています。検索時には発足年度に注意しましょう。
総理府統計局（1949年～）→総務庁（1984年～）→総務省（2001年～）

6.3 ハンドブック・便覧 ～実用的な知識・技術の習得に～

6.3.1 便覧・ハンドブックってどんな本？

- 特徴1** 実例・諸表・図などを豊富に利用して、特定分野の用語や基礎的事項、手順・方法などが解説されています。
- 特徴2** 各項目は50音順ではなく、その学問分野の体系にしたがって配列されています。
- 特徴3** 内容は一般的なHow toものから専門家向けのデータブックまであり、きわめて多彩です。
- 特徴4** ハンドブック（便覧）のほかに要覧・必携・ガイドブック・マニュアルデータブックなど様々な名称が使われています。